

「日本プロオーケストラファンクラブ協議会」第2回総会資料

団体名	広 響 フ レ ン ズ
担当者	谷 邦彦、佐藤 幸一

1, 最近の活動状況

「第8回総会及び交流会」を11月30日に実施予定。その準備をしている。

総会は、不定期ではあるがほぼ年1回開かれ、会員に対し会のおかれている現状や活動報告をする。その後、楽団員も参加して、参加者と交流を深める楽しい企画を用意している。普段はなかなか会うことのできない楽団員との交流を楽しみにしている会員も多い。

(その他継続的な活動)

- フレンズスタッフ(世話人)作成の「フレンズ通信」と、次回定演頃迄に行われる広響団員関係のコンサート一覧案内チラシをフレンズスタッフが作成し、定演時に配布する。
- 定期演奏会時、会場ホールロビーに「広響フレンズコーナー」を設けて、フレンズ加入の訴えをしている。
- 機関誌トレンド広響に楽団員とのインタビュー等の記事の作成。

2, その他、ファンクラブ活動でアピールしたい事など。

広響フレンズは、1998年、定期演奏会入場者の増加と楽団への支援を強めるため、協会と楽団員により、設立されました。

個人に負担にならない額として会費年3000円とし、広響主催演奏会の入場料20%割引、機関誌「トレンド広響」の年4回配布、楽団員との交流、指定店舗における割引の特典があります。現在の会員数は600名位です。

2000年より、総会(又は交流会を含む)7回、ボウリング大会3回、野外交交流会5回の規模の大きな行事を中心に活動してきました。これらは協会からの援助金により、通常より安い参加費でまかなえたこともあり、全体で100名を超える規模になったこともありました。

その他、スタッフ、団員の企画による定期演奏会後の交流会を何度も開いたこともありました。

しかし、国、自治体からの協会への補助金が削減される中、フレンズ活動への援助金がなくなり、企画できる行事も参加会費のみでまかなう手作りのものになりました。現在は頭書記載した「総会及び交流会」のみが活動の主体になっています。

現在、こうした状況を少しでも改善するため、地道なチラシの配布等を続けるなどして、会員やファンとの接触やフレンズスタッフを増加をめざし、その結果、会の活動が活発になり、定期演奏会の入場者や広い支援体制が増加するよう努力しています。

ファンクラブ交流会の参加も、そのための活動の一環です。